



Research Office Newsletter



特集: APU出身のAPU教員へのインタビュー

多くのAPU卒業生が研究者・教員として世界中で活躍しています。
10月号ではAPU出身のAPU教員にスポットを当て、3名にお話を伺いました。

アジア太平洋学部

ヴァファダーリ カゼム教授

APU修了

年	研究科
2008年	アジア太平洋研究科博士後期課程修了 (PhD)

現在の研究内容:

観光を通じた農業遺産景観の活性化と発展



APU教員

データベース

専門分野: 観光、農業遺産

なぜ研究者を志しましたか。APUでの学びは、現在の研究者としてのキャリアにどう影響していますか。

私は、有益な研究は研究者と社会の双方に恩恵をもたらすと信じています。それは研究者の人生に洞察を生み、さらに地域における生活水準を向上させます。研究をするためにプロの研究者になる必要はありません。誰でも知を創造する研究のパワーから恩恵を得られるのです。知は限りなく必要で、さらなる理解や問題解決のためには、我々は研究を続けなければなりません。

APU在学時の私の研究成果と提言が国連大学で採択されました。これにより日本の里山景観と観光を通じた地方活性化に関する研究を継続できることになりました。また、「日本の里山・里海評価 (JSSA)」チームに加わり、石川県能登半島「能登の里山里海」の「世界農業遺産 (GIAHS)」日本初認定に貢献することができました。2011年に教員として再びAPUに戻り、国東半島と宇佐地域の農業遺産研究を通じて、私の研究成果や経験を大分県に還元してきました。今後はAPUでの研究成果を日本国内にも還元し、現在私が採択されている科学研究費助成金 (科研費) を活用した研究成果を世界と共有したいと考えています。

研究者志望の学生にアドバイスをお願いします。

私は研究課題を決めるとき、他の何よりも研究の有益性と研究倫理を重要視します。もし自分の研究が有益で人々に恩恵をもたらすと信じているなら、たとえ発表することが困難な状況でも、自分の研究を続けるべきです。様々な種類の研究を行うよりもむしろ特定の研究領域に集中し、その分野のエキスパートになることも重要です。私たちは常に新しい研究手法を試み、さらなるチャレンジを克服する新たな可能性を探るべきです。



カゼム教授によるパンデミック時代の最新発信をチェック 'Smart Community Tourism' www.scotwebinars.org



国際経営学部

アカラデシルンスリー パジャリー 准教授

APU卒業・修了

年	学部・研究科
2009年	国際経営学部卒業
2011年	経営管理研究科修了(MBA)
2014年	アジア太平洋研究科 博士後期課程修了(PhD)



APU教員
データベース

なぜ研究者を志しましたか。APUでの学びは、現在の研究者としてのキャリアにどう影響していますか。

専門分野: 経営管理 消費者行動
デジタルマーケティング
アントレプレナーシップ

熱心な教育者、活発な研究者、協力的な大学サポーターになることを目標とする私の行動哲学の一部として、私は常に授業で様々な教育学修手法を試みています。例えばActive LearningやCase Teaching、Project-Based Learning、Experiential-Based Learning、Evidenced-Based Learningなどです。これらにより、学生は学修過程で自分が参加し、特に私が研究したことを教育において実践しているEvidenced-Based Learningを通じて、主体性と恩恵を実感するのです。研究活動を積極的に行うことが、エビデンスにより特定分野への洞察が深くなるだけでなく、自分の視野を広くすると私は思います。

私は教室での学びやディスカッションに研究プロセスや発見の一部を容易に取り入れることができ、博士後期課程在学中は研究が好きでした。研究を通じて物事を体系的、批判的に様々な角度から考えることができるようになりました。時には将来に繋がる答えを見つけ出してくれます。また、特にインタビューや調査、学会発表等を通じて、新しい機会や新しい人々との出会いも切り拓いてくれます。

私が博士後期課程在学中、恩師の横山研治教授が私にオランダ・マレーシア・日本・オーストラリアで開催された国際学会への参加を奨励しサポートしていただいたのを今でも覚えています。それは私にとって難しい挑戦でしたが目を見張る経験となりました。そこで私の研究分野のエキスパートから学ぶ機会を得ました。それ以来私の研究に対する見方が変わり、研究が楽しく面白いと感じるようになりました。



研究者志望の学生にアドバイスををお願いします。

人生とは学び(learning)、学んだことを忘れ(unlearning)、再び学ぶこと(relearning)です。そして学びを繰り返すために、誰もが有る種の自己探究を経験します。私はデータ収集や仮説に結びつかない研究結果、投稿した論文が不採択になる苦しみと戦いました。これらは研究者なら誰もが経験することで、私ひとりだけのことではないと信じています。実は、これら全てが学びであり前進へ繋がっているのです。苦しいときは躊躇せず助けを求めてください! 様々なスキルと経験を持つ仲間との研究が、喜びと実り多い研究に導いてくれます。



言語教育センター

チョン ジョンヒ

鄭 鍾熙 准教授

APU卒業

年	学部
2011年	アジア太平洋学部卒業

現在の研究内容：

UDL理論に基づくインクルーシブ授業の開発に関する事例研究：立命館アジア太平洋大学の1回生演習科目と言語科目を対象に

(Center for Inclusive Leadership 教授法研究助成)



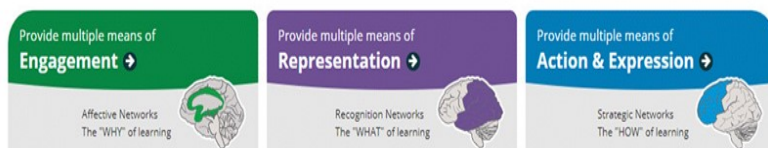
APU教員
データベース

専門分野：言語学、外国語教育



Universal Design for Learning と Language Learning

Universal Design for Learning Guidelines



CAST (2018). Universal Design for Learning Guidelines version 2.2. Retrieved from <http://udlguidelines.cast.org>

研究の背景

- ・ 学習者の「特性」は多様化しつつある
- ・ 「特性」への対応は法的義務
- ・ 日本国内では、学級におけるUDL実践が進んだ
- ・ 言語授業におけるUDL実践が必要

研究の目的と意義

- ・ 韓国語授業のUDLに基づく授業改善
- ・ 学習意欲と学業達成の変容を測定する
- ・ 大学におけるUDLの実践
- ・ 韓国語学習に効果的なUDLを提言する

なぜ研究者を志しましたか。APUでの学びは、現在の研究者としてのキャリアにどう影響していますか。

実は、学生の頃は研究者になることよりも、好きな音楽と芸術に関係する仕事に就きたいと思っていました。一方で、仕事にするのは「好きなこと」か「得意なこと」のどちらを選ぶべきか悩んでいました。最終的には後者の「得意なことを仕事にしよう」と決心して、研究者になるために大学院に進学し、現在研究者として頑張っています。

研究者の仕事は楽しくやりがいを感じます。特に言語と思考・感情の関係に関する研究テーマが好きで、いつもワクワクさせられます。私はAPSのカリキュラムのおかげで、様々な学問分野の知識と経験を得ることができました。私の場合は、その中でも言語と文化に魅力を感じました。フェルディナン・ド・ソシュールというスイスの言語学者がいるのですが、彼の著書（実は著書ではないのですが）『一般言語学講義』を読んだのがきっかけで言語学に興味を持つようになりました。



研究者志望の学生にアドバイスをお願いします。

研究者・教員は魅力的な職業だと思います。好きな研究に没頭し、日々の成長を実感できますし、学生や他の研究者との交流は自分の更なる成長のための刺激になります。長い人類の知の歴史に、ほんの少しではあるものの、自分自身の研究成果が記録されることになります。価値のある仕事で、他ではできない貴重な経験だと思います。**ぜひ、研究者・教員を目指してほしいです。グッドラック!**



Asia Pacific Conference アジア太平洋カンファレンス2021

2021年12月4日（土）・12月5日（日）

多様性とインクルージョン

アジア太平洋カンファレンスとは？

アジア太平洋カンファレンス（APカンファレンス）は立命館アジア太平洋研究センター（RCAPS）の主催により2003年から毎年開催され、今回で19回目を迎えます。分科会では毎年幅広いテーマについて発表が行われます。また、著名な研究者を基調講演者としてお招きし、お話をいただいています。人文社会系においては、日本最大規模の英語で開催されるカンファレンスの一つとされています。今年は12月4日（土）・5日（日）に開催され、テーマは「多様性とインクルージョン」です。

開催形式と聴講者募集

今回は対面とオンラインのハイブリッド形式で開催予定です。
（今後の状況によっては、オンライン形式のみとなることがあります。）

11月中旬から聴講者を募集します。詳細はAPカンファレンスサイトをご覧ください。 <https://www.apu.ac.jp/apconf/>



APカンファレンスWebsite



2021 セッションタイトル（抜粋）

- Challenges of the Trans Community: Multiple Gender and Bodies
- Asian Resilience to Climate Change, Disaster, and Social Transformation
- Linguistics Studies
- Realizing Islamic Values in the Contemporary Muslim Communities in Asia
- Asia as a Theater of Cultural Communication
- Asian Medicine: Tradition and Innovation
- Challenges in Implementing Muslim Friendly Hospitality Services (MFHS) in Japan [APU-RCMA Session]



APU最新研究情報はAPU Research Office Facebookでチェック

<https://www.facebook.com/apuresearch>

